

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090300043		
法人名	社会福祉法人ジェイエー長野会		
事業所名	ローマンうえだグループホーム豊里		
所在地	長野県上田市芳田1871番地		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	平成22年3月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090300043&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域に開かれたグループホームとして、自治会行事の参加(文化祭、レクリエーション大会)や、ボランティア(手芸、読み聞かせ、お茶、フラダンス、大正琴、舞踊等)の方が大勢来られ、気軽に立ち寄って下さり地域に支えられているグループホームであります。ご家族も1・2週間に1回面会の足を運ばれ、家族との繋がりを大切にしています。立地条件では、田圃、葡萄畑に囲まれ四季折々を感じられます。近くには、美穂池公園、内科、整形外科、薬局、コンビニエンスストア等、入居者さんの生活環境が整っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所周辺は、田畑・住宅、少し離れて神社・公園・広場、交通量の少ない道路、コンビニなど豊かな自然と生活環境に恵まれた立地条件を持ち、日常的な散歩や地域住民とのふれあいが行われている。2か月に1回行われる全利用者出席の運営推進会議、同日に行なう家族会と地域や家族とのつながりや支え合いを大切に、常に事業運営の透明性を図りながら、多くのボランティア等の協力支援を得て、利用者の安心と尊厳ある生活づくりを支援している。暮らしの根源である食事は、馴染みの食事・得意料理・郷土料理を利用者が主役となって作ったり、野菜作りをし、食材として活用するなど食事作りが、利用者の張り合いや自信、楽しみや喜びに繋がるよう取り組んでいる。事業所全体は、温かみを感じる木や木製品の家具を主体としており、ゆったりと落ち着いた雰囲気があり、これまで認知症の周辺症状に悩み、不安を感じて来た利用者にとっては、ほっと安らげる場所に出会うことができ、新たな暮らしが始まっているのではないかと感じられた。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき、「尊厳の保持」「自立を助ける環境」「健康の維持」「豊かな人間関係と支え合い」のケア方針を重視した生活支援を行っている。グループホーム会議、学習会、新職員オリエンテーション等で共有している。	安心と尊厳ある自立した生活を、ご家族や地域の人々との関わりや支え合いの中で支援していくことを事業所独自の理念として掲げ、グループホーム会議等で職員の理念の共有化を図りながら、実践に結び付けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方からの作物の差し入れや、お茶飲み、散歩、買い物での立ち話等地域の方とのふれあいが多し。地区行事(文化祭、レクリエーション大会まゆ玉づくり)、530運動、草刈り、公民館掃除も入居者さんとともに参加している。	地域の行事に参加したり、地域の一員として公民館清掃などの作業にも参加協力している。地域の方がお茶飲みに立ち寄りたり、散歩途中に立ち話をしたり、野菜などのおすそ分けを頂いたり、多くの地域のボランティアが訪れたり、親しく、日常的に地域とお付き合いをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	神科地域包括支援センター、特養ローマンうえだと共に講師を招き「知って安心認知症」をテーマに地域向け研修会に協力する。運営推進会議、ボランティアさん、視察等、認知症についての啓発に努めている。人材育成として実習生を受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、日々の入居者さんの生活、健康状態、事故報告等報告し、外部からの意見をお聞きしながらサービスの向上に繋げている。	2か月に1回会議を開催し、委員に全利用者と家族を加え、事業所の現状を透明性を持って伝え、意見も多く出るなど、双方向的な会議運営となっていた。会議での意見は、事業所にとって貴重なものと受け止め、サービス向上に具体的に活かしていくよう速やかに取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加時に日頃の生活を見て頂いたり、意見を交換している。介護保険指定サービス事業者連絡協議会の地域密着型部会研修を開催し、市担当者にも参加して頂き、取り組みや実情を話し合っている。	年6回開催する運営推進会議に市の担当者が継続的に出席しているため、その折に事業所の実情や課題を話すなど意見交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。協力関係作りのために上田市介護保険サービス事業者連絡協議会の地域密着型部会も活用している。	

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修への参加、施設内学習会を行い、共有している。入居者さんが出たい時にいられるよう職員が行動や様子をみながらさりげなく関わる一方、ヒヤリハットからの検証より安全面も配慮している。マニュアルによる共有化を図っている。	外部研修や事業所内学習会、マニュアル理解の徹底により、拘束しないケアについての職員の共有化は図られている。職員の見守りや連携プレー、地域住民の理解や見守り体制もあり、玄関には施錠はなく、抑圧感のない暮らしの支援が出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部研修への参加、施設内学習会を行い、マニュアル作成し共有している。入居者さん本位のケア見直しのカンファレンスを行なっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修への参加、施設内学習会を行い、共有している。事務所にパンフレットを設置、いつでも相談対応が出来るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会、個別に時間をかけて説明している。重要事項、契約書の内容をポイントを絞って分かりやすく説明し、聞きたい事に対してはじっくり説明している。介護報酬改定時も家族会、個別でじっくりと説明をして同意、ご理解を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時等、職員から声をかけ、ご家族との信頼関係を大切になんでも言える雰囲気作りに配慮している。意見は、その日に話し合い経過を後日ご家族等にお伝えしている。	2か月に1回、利用者参加の下、家族会を開催し、ご家族の思いや意見を聞いている。面会時にも職員から声を掛け、意見を言い易い関係作りに努めている。たよりを年4回発行し、利用者の様子や地域とのつながりを伝え、ご家族の安心感を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のカンファレンス、月1回の学習会、グループホーム会議において、意見や要望、思いを聴くようにしている。普段の業務の中で声をかけて個別に意見を聞く努力をしている。	グループホーム会議などの機会や日々の業務の中で意見や提案を聞いて、相互に意見を言い易い関係作りに努めている。管理者と職員とのコミュニケーションは良く取れていた。	

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者が、2ヶ月に1回の運営推進会議、随時現場に來られ入居者さんや職員の状況を把握している。職員教育シートを活用し、目標を設定し一人ひとりの仕事の意欲を把握している。休憩室を確保し、ゆったりと休憩できるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ローマンうえだ職員教育プログラムのに基づき、内部、外部研修に参加している。資格取得向けの研修、内部学習会へ参加し意欲向上につなげている。新人、異動職員に対してのオリエンテーションを作成し実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県宅老所・グループホーム連絡会へ加入し、研修参加、意見交換を行っている。介護保険サービス事業者連絡協議会、地域密着型部会による研修会、事例検討会を行い他事業所との交流、質の向上につなげている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、生活の状況をじっくりと把握するようにしている。ご本人の不安なこと等をしっかりと聞いて受け止めていく。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅へ訪問し、ご家族が求めている事をしっかりと聞いて把握する。今までの経緯を聞いて、今後の相談に繋げていく。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人や家族の思い、状況を把握して、ニーズに合ったサービスに繋げていく。		

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パーソンセンタードケアに基づき、ご本人の立場に立って思いや気持ちを理解し、学び、生活の中で共有しながら支え合う関係を大切にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の状態を随時報告し、面会時はご本人とご家族との関係を尊重し支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と以前住んでいた自宅へ行ったり、近所の方が定期的に面会に来られたり、お墓参り、自宅の近くにある神社行ったり、馴染みの美容院へ行ったりとご本人の生活習慣を大切に、継続的な交流を支援している。	馴染みの方が訪ねて来たり、行き付けの美容院や懐かしい自宅・お墓・神社へ行ったり、これまでの暮らしの中で培われてきた関係や思い出が途切れないように、ご家族の協力を頂きながら、支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間との外出や散歩、趣味活動楽しんだり、お茶の時間にお互いの気持ちを聞くよう、職員が一緒に多くの会話を持つ。入居者さん同士の信頼関係を大切にしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも、入居者さんと面会に行ったり、食事に招いたり、ご家族とお茶を飲んで頂いたり継続的な付き合いができるよう支援している。ご本人、ご家族とも経過をお聞き、相談、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でご本人にとってどうなのか、ご本人の希望を大切に、ご家族からもお聞きして職員間でカンファレンスにて話し合っている。センター方式D-4シートを活用し本人の気持ちを探りケアに繋げていく。	センター方式を活用して、利用者の願いや思いを把握し、廊下の清掃、自室のモップがけ、洗濯物の片付けなど、利用者が自ら、すすんで出来ることをやっていただきながら、希望に沿った一人ひとりの暮らしを支援している。	

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式A、Bシートをご家族に記入して頂き、入所時をご家族からお聞きし、今までの生活が継続できるよう支援している。守秘義務、プライバシーの保護に十分配慮する。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、出来る事、わかることに視点を置いて、その人全体を見ていき、安心安全な生活をチームで支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに全員が参加し、ご本人、ご家族、他職種(訪問看護等)参加して頂く。ご本人がより良く生活できるように話し合い、ケアプランに繋げている。	センター方式を活用して、基本・暮らし・心身・焦点情報を土台にし、地域の中でその人らしく暮らし続けることを目標にした介護計画を作成していた。毎月カンファレンス・モニタリングを行い、3か月に1度、面会や受診時の際に、家族カンファレンスを行いながら計画の見直しを行っている。心身の状態変化に応じての臨機応変の見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、ご本人からの言葉や行動を個別の記録に書き留めている。いつでも職員が共有できるよう個別にファイルしている。食事、水分排泄、身体状況等も記録し、共有できるようになっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの医療連携を契約。外部の客観的な医療的視点を取り入れ、質の向上につなげている。ご本人、ご家族の希望で通院付き添いの支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生児童委員、自治会長を招き意見交換を行っている。今後、地域包括支援センターの方にも会議に参加して頂くよう働きかける。防災訓練での地元団の参加、公民館での行事参加を行っている。		

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診についてはご家族が行い、ご家族希望時には受診付き添いを行っている。状態変化時等センター方式D-4シートや状況をまとめて伝えている。	利用者のご家族の希望するかかりつけ医であり、事業所の協力医療機関も多く、適切な医療を受けられる体制が整っていた。受診は基本的にご家族が行うことが了解されているが、事情によっては職員が代行することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員2名配置、訪問看護ステーションと契約しており、入居者の健康管理、状態変化について相談、対応を随時行っている。看護職員がいない時は、介護職員の意見や記録に基づき連携を行っている。状態変化については早期発見に医療へ繋げている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護スタッフと話し合い、早期の退院支援を医師に連携しアプローチしていく。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常生活において、些細なことでも面会時や電話連絡を行い定期的に報告し、状態変化時の合対応に備えていく。ご本人、ご家族に終末期の希望を「看取りに関する意思確認書」に書いて頂いている。「看取りに関する指針」マニュアルも作成し、今後、定期的にご家族に意向を確認し進めていく。	看取りに関する指針があり、利用者のご家族の意思確認は出来ている。協力医療機関の医師等の協力を得られる環境があり、職員も母体である特養での経験者も居るため、重度化や終末期への支援体制は整っていた。思い違いをしたり、思いが揺れたりすることもあるので、定期的な話し合いを重ねる姿勢である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による施設内での学習会を行い、吸引機の使用法、心肺蘇生法等学んでいる。マニュアル作成もされている。今後、訪問看護ステーションによる学習会も検討している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時マニュアルを作成し、年2(内夜間1回)入居者さんと共に実施。ご家族、消防署、消防団、自治会役員の協力を得て実施。消防署による消火器使用方法、消火栓、消防器具確認、グループホーム火災の事例についての学習会を行う。	年2回、昼夜1回ずつの想定による訓練(通報・避難・消火)を全職員参加の下、消防署、地域住民や消防団の協力を得て実施している。自動通報装置などの防災設備は完備しており、スプリンクラーは21年12月中に設置完了することを伺った。母体施設の職員が事業所周辺に居住しているので、その協力を得られる体制になっている。	夜間の災害は夜勤者1名になり不安も大きく、年2回の訓練だけでは対応行動が、なかなか身に付かない。利用者の避難についても変化する心身の状態に合わせての対応になるので、イメージトレーニングを頻度よく実施して、その時に応じた災害対応ができるような態勢を整えておくことを期待します。

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方やプライバシーを損ねる事がないよう、常に配慮して関わっている。カンファレンスで話し合い職員間で注意し合っている。個人情報の保護、守秘義務についても十分注意している。	法人の理念に「プライバシーと人権の尊重」、事業所の理念に「尊厳ある生活の支援」とあり、この理念は職員に浸透しており、実践の中でも職員間で注意し合うなど利用者一人ひとりの尊厳の保持に努めている。個人の書類は事務室の鍵の掛かる収納庫に保管されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩、買い物、近所の方との交流や、入浴の時間や順番、衣類を選んだり等、ご本人の意思を確認しながら行なっている。意思表示が困難な方は、表情や思考を把握して行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握して職員が合わせ希望に添い、体調にも合わせて支援している。行きたい所へ外出したり、趣味を行ったり等やりたい時に行える環境を整えている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と馴染みの美容院へ行かれたり、好みの洋服を着て外出したり、お化粧したり、好みのシャンプーを入浴時使用したり等、おしゃれを楽しめる支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	馴染みの食事、得意料理、郷土料理を、ご本人が主役になり行える場面を作り大切に支援している。出来る事を把握し、調理、盛り付け、片付けを日々共に行なっている。	調理から食器拭きまで、利用者の出来る範囲で職員と一緒にやって行い、時には食材の買い物に出掛けることもある。得意料理などを利用者を作ることにより、自信や楽しみに繋がるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事、水分量を把握し、記録に残している。不足時は、好みの食べ物や飲み物、補助食等で工夫している。4ヶ月に1回管理栄養士により栄養指導を行い、献立の確認等客観的意見を取り入れている。		

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの状況に応じて、環境を設定したり介助している。特に夕食後は義歯を洗浄剤につけ清潔保持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考にし、時間での誘導ではなく、ご本人の様子、サインを共通認識しその都度対応している。トイレの場所が分からない方には、自尊心を大切に声かけや対応を行っている。	排泄パターン、利用者の様子やサインを把握して、羞恥心や不安を軽減するよう配慮しながら、トイレ誘導や声掛けをして、排泄の自立に向けた取り組みをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事メニューの工夫、午前のお茶の時間に乳製品を取り入れたり、体操や散歩の出かけ身体を動かし予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりにいつ入浴したいかをお聞きして、体調に合わせ、浴室や脱衣室等環境に配慮し気持ちよく入浴できるよう支援している。	希望により、何時でも(午後)入浴出来るようにしているが、最低でも1人週2回は入浴するよう心掛け、菖蒲湯やゆず湯などの季節を味わえる試みや入浴剤を使うなど入浴が楽しみとなるような工夫もしている。介助対応のための浴槽移動、その人に合わせての手すりの移動、重度化対応の水圧式リフト設置など細心の配慮がされていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの休憩時間(昼寝、就寝時間等)を把握し、その時の状況に合わせて支援している。寝付けない時は、手を握ったり、室温、音、光等の環境に配慮し、個々に応じた対応を支援している。夜間の良眠にもつながるよう、日中の生活も工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルが作成されており、職員が内容を把握できるようになっている。変更時は看護師により作成され、共有化されている。服薬時には配薬箱から理解の状況により、手に渡したり、口の中に介助して確実に服用し確認している。		

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝い、掃除、新聞、本を読んだり、日記を書いたり、手芸、塗り絵、散歩、歌等、一人ひとりの力を発揮でき共に楽しめるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気候に合わせ、日常的に散歩やドライブ、買い物、外食や季節の花を見に行く等、希望に沿った支援を行なっている。ご家族と外食をしたり、お墓参りに行ったり等出かけることもある。	事業所周辺は四季の変化を味わえる日本の原風景とも謂える場所であり、日常的散歩には最適なため積極的な支援が行われている。季節ごとの花見、ドライブ、買い物など、気分転換や五感の刺激となるよう戸外に出かける機会を多くするよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の症状に合わせ、少額を本人管理されたり、家族や本人に理解を得て預かっていたりしている。買い物等支払える時は行なって頂いたり社会生活に繋げている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけている。知人や遠方の家族へ手紙を書いたりしている。プライバシーに配慮して自室にて行なっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の雰囲気(料理を作っている音や匂い、季節の食材、季節の花等)や昔懐かしい歌謡曲、童謡をながしたり、生活から五感や季節感を取り入れるように配慮している。	調理の音や匂いが感じられるよう、台所と食堂は一体のフロアとなっていた。居間は食堂とは腰高の壁で仕切られていたが、採光も良く、格調高いソファやテーブルが置かれ、掃き出し窓の外にはウッドデッキがあり、廊下天井には明かり採りの天窗もあり、温かみのある木を主体とした趣のある、落ち着いた雰囲気が感じられた。穏やかに、ゆったりと時間を過ごすことのできる空間になっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースが3か所あり、ソファ、テーブルがありゆっくりと寛げる。お話しをしたり、一人になったり等できる環境を整えている。花や絵画が飾ってあり落ちついて寛げる環境になっている。		

外部評価結果(ローマンうえだグループホーム豊里)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具(タンス、ソファ、鏡台等)が居室に用意されている。家族の写真や日用品、小物等持ち込まれ、居心地の良い空間となっている。	ベッド、タンス、机、椅子は調和のとれた物を事業所で準備し、利用者ご家族は、これまで馴染んできた寝具、テレビ、家族の写真などを思い思いに配置して、自らのぬり絵作品を貼るなど、その人らしく暮らしていけるような部屋作りをしていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等手すりを設置。トイレの場所がわかるよう「便所」文字を戸に付けたり、夜間トイレをライトアップし場所が認識できるよう工夫する。カンファレンスの中で本人の環境認識を話し合い環境整備に努めている。		